

# 【旧広島陸軍被服支廠】 活用の方向性に係る報告

2023年3月

## 懇談会の設置目的

- 旧広島陸軍被服支廠の活用について、県民や有識者との意見交換等を踏まえ、令和4年度末までに、実現可能性のあるアイデアを「活用の方向性」として、複数案取りまとめることを目的として、「旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会」（以下、「懇談会」という。）を設置する。

## 検討に当たっての観点

- 検討の前提として、広島県から次の3つの観点が示され、これらの観点を踏まえ、懇談会やワークショップでの議論・検討を進めた。

- 広島県（広島市）において必要とされること
- 立地条件や広大な空間を有する建物を活かせる
- 重要文化財級との評価を受けている建物の価値を毀損しない

## 懇談会での検討

- 懇談会では、被服支廠の活用に関する基本的な考え方と活用の方向性等について検討を行ってきた。
- 来年度以降、懇談会で取りまとめた活用の方向性を基礎として、国・県・広島市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会（以下、「研究会」という。）」において、被服支廠の最終的な活用策の議論・検討を行う予定である。
- このため懇談会の報告としては、来年度以降の議論のベースとするため、ワークショップや懇談会が出た意見を網羅的にまとめ、県民の皆様にも検討内容が伝わるよう、「基本的な考え方」や「活用の方向性」としてわかりやすく内容を整理したものを提示する。

## 報告書の構成

1. 基本的な考え方
2. 活用の方向性

# 1. 基本的な考え方

## 活用に向けたコンセプト

### 時代背景

- 被服支廠は大正2年に陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う場として建設され、軍都として発展する
- 被爆時（昭和20年）には、被爆者の臨時救護所として使用された被爆の痕跡を今に伝える国内最大級の被爆建物である
- 戦後は、学校の教室、学生寮や運送会社の倉庫などとして活用され、戦後復興を支える

被服支廠は、時代に応じて地域の拠点としての役割を果たし、地域とともに存在し続けた。

### 活用に当たって重要なポイント

- 地域住民や多くの方々が愛着を感じ、誇りを持つことが重要 **（愛着・誇り）**
- 戦前、被爆、戦後という歴史を大切にしつつ、広島未来に繋がる場とすることが重要 **（価値の継承）**
- 地域の中での被服支廠（地域拠点）という視点に加え、広島の中での被服支廠、世界の中での被服支廠などの多様な視点で活用を検討することが重要 **（地域の中での被服支廠）**

# 1. 基本的な考え方

## 愛着・誇り

- 過去から現在，未来を見据えた「時」をつなぐ場所として，被服支廠の歴史を伝え，新たな価値を生み出す

## 価値の継承

- 被服支廠は将来にわたって存在し続け，価値を継承し，歴史と平和の大切さを伝えていく資源として**守り続けていく**

## 地域の中での被服支廠

- 訪れる人，周辺に住む人，そして，関わる県民，国民，世界中の「人」をつなぐ場所として，みんなで取り組み続ける
- 新しい機能（活用の可能性【種】）を取り入れながら，時代に応じて，**育て続けていく**ことで持続可能な活用をめざしていく

コンセプト：

「みんなで守り・育て続ける」～時と人をつなぐ場 被服支廠～

# 1. 基本的な考え方

## コンセプト：「みんなで守り・育て続ける」～時と人をつなぐ場 被服支廠～

育てる 将来にわたって 様々な種を時代の変化に即しながら育てていく

活用の可能性  
【種（新しい機能）】

活用し続けるために必要なこと  
【種を育てるための水・光・空気・養分】

### 対象とする範囲

- ・ 4棟（県管理3棟+国管理1棟+その周辺の空地）を対象とし、複合的な利用を想定する
- ⇒被服支廠のもととの敷地、その周辺、広島市内、広島県内、さらに全国・海外とのつながりも意識

集う・交流

#### ①県民が日常的に集う

日常的に憩い、集える空間として使うことができる図書館や多目的ルーム、アーバンスポーツ施設等

#### ②県民と来訪者が交流する

県民・来訪者ともに気軽に立ち寄り、交流することができるマルシェや公園・広場、観光センター等

学ぶ・体験

③広島の歴史・平和等について学び、体験する  
広島の歴史や自然、平和、被服支廠の建築的な価値等を学び、継承する資料館・博物館、それを活かした体験ができる様々なツーリズムの拠点等

#### ④多世代がつながる

多様な世代が交流しながら学び、様々な活動に利用できるサテライトキャンパスやボランティアの拠点等

創造・発信

#### ⑤創作・表現・発表する

多様な価値観で創作・表現活動、発表ができるアトリエや展示施設、イベントホール、劇場、AI・IT産業の拠点等

#### ⑥世界とつながる

国内外の人々が被服支廠の建物を通じて平和の大切さや歴史文化など様々なストーリーを感じることができる宿泊施設やコンベンション施設等

#### 存在・価値を共有・広める

- ・ 被服支廠の存在が県民の宝であることを共有し、広めていく

#### 協働で取り組む

- ・ 活用方法に応じた多様な人・主体（行政・団体・民間事業者・個人）の参画、関与の仕組みをつくる
- ・ 周辺地域との関わりを増やし被服支廠とともにまちを育てていく

#### 時代に合った環境・空間を創る

- ・ 交通網など被服支廠の活用を進める上での訪れやすく・滞在しやすい環境を整える
- ・ 被服支廠の空間を活かしつつ、時代の変化に対応した設備を整備していく

#### 持続的な活動を支える資金を確保する

- ・ 活用に必要な資金を確保する
- ・ 運営・設備の更新、時代の変化に応じた新たな機能の導入のため、行政からだけでなく資金を持続的に確保していく

### 活用によって得られるもの【果実】

#### 唯一のもの・オリジナルな成果

- ・ 育まれた活用（成果）は、ここでしか実現できないもの
- ・ 活用によって得られる、子どもたちの笑顔、創造的な人材、人と人の繋がり、県民の誇りも重要な成果
- ・ 大きな視点では、広島の価値・知名度・ブランドを高めていくことにつながる

守る

将来にわたって 「被服支廠の存在を活かしていく」  
「被服支廠の価値を継承していく」  
「歴史と平和の大切さを伝えていく」

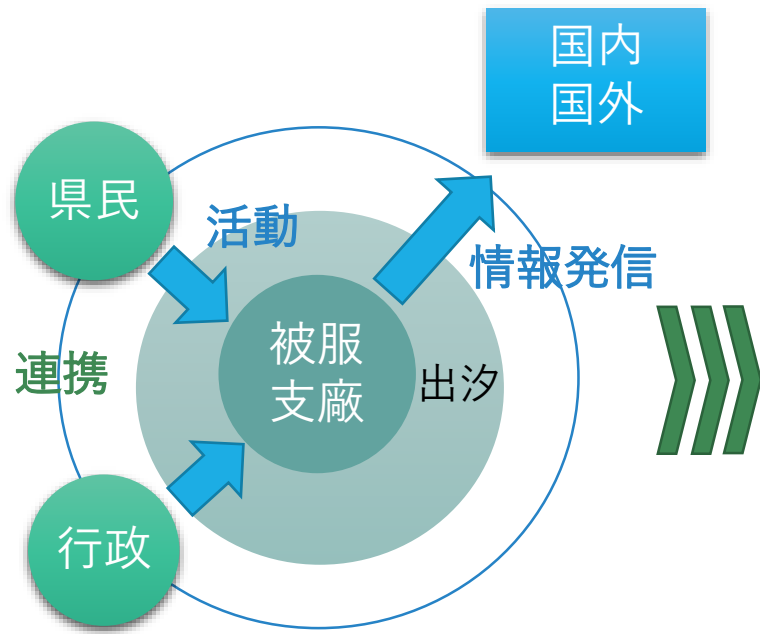


# 1. 基本的な考え方

## 「人」をつなぐ場所

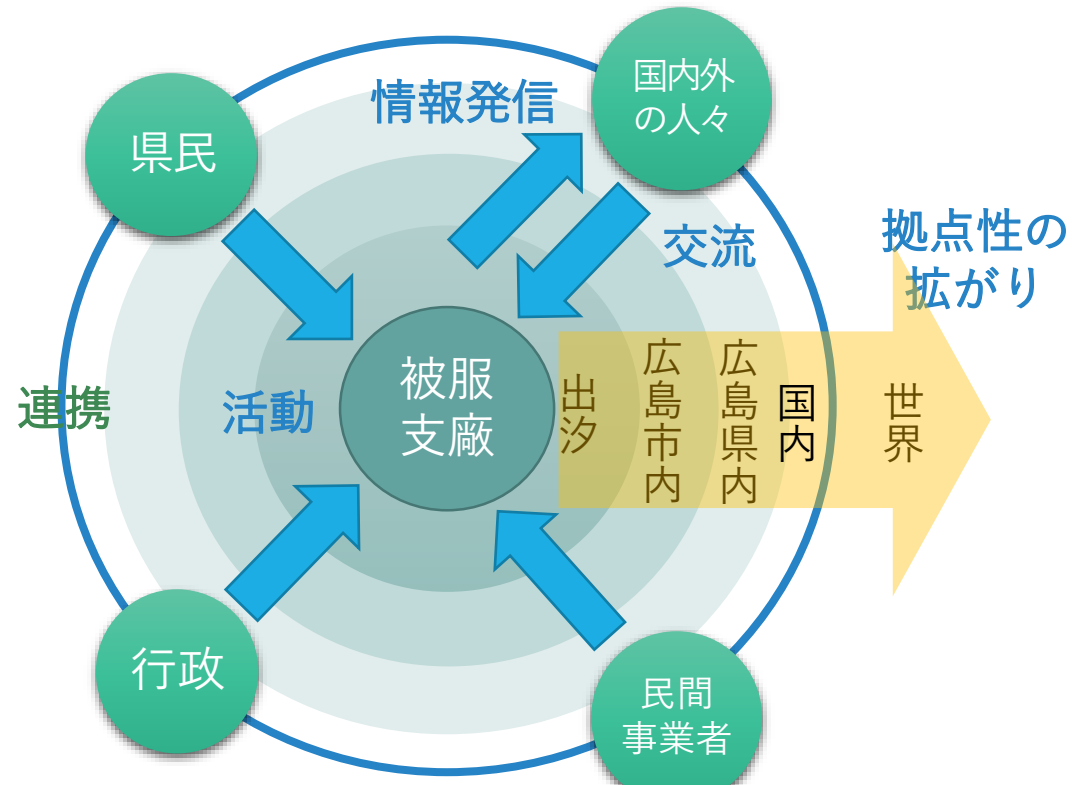
- 被服支廠を核に，様々な人が関わり合う場となることが重要である。
- 被服支廠での活動が人を呼び込み全世界の人々が訪れ・交流し，活動・発信する場所として位置付ける。

【情報発信・活動の場】



- 県民，行政が連携しながら被服支廠を核に地域を巻き込んだ実験的活動を実施
- 被服支廠の価値や活動の情報発信を実施
- 未来に語り継ぐ人材の育成・組織の育成

【情報発信・活動・交流の場】



- 活動の主体が民間事業者や世界中に広がる

< 当面の人のつながり > < 将来的な人のつながり >

# 1. 基本的な考え方

## 活用の可能性【種】

- “守る”べきことを踏まえたうえで、被服支廠に新しい機能（活用の可能性【種】）を取り入れる。
- 新しい機能（活用の可能性【種】）は、時代の変化に則しながら変わっていくべきものであることから、現時点での“活用の可能性”をとりまとめた。
- 本報告では、活用の種を、ワークショップ等での意見を踏まえ、大きく「集う・交流」「学ぶ・体験」「創造・発信」の枠組みに類型化した。

類型	活用の可能性【種】	左記の概要
集う・交流	① 県民が日常的に集う	日常的に憩い、集える空間として使うことができる図書館や多目的ルーム，子育て支援施設，スモールオフィスやサテライトオフィス，アーバンスポーツ施設等
	② 県民と来訪者が交流する	県民・来訪者ともに気軽に立ち寄り，交流することができるマルシェや公園・広場，観光センター等とあわせ，広島県の歴史や被服支廠の空間を活かしたイベントの実施
学ぶ・体験	③ 広島県の歴史・平和等について学び，体験する	広島県の歴史や自然，平和，被服支廠の建築的な価値等を学び，継承する資料館・博物館，それを活かした体験ができる様々なツーリズムの拠点等
	④ 多世代がつながる	多様な世代が交流しながら学び，様々な活動に利用できるサテライトキャンパスやボランティアの拠点等
創造・発信	⑤ 創作・表現・発表する	多様な価値観で創作・表現活動，発表ができるアトリエ・工房や展示施設，イベントホール，劇場，AI・IT産業の拠点等
	⑥ 世界とつながる	国内外の人々が，被服支廠の建物を通じて，平和の大切さや歴史文化など，様々なストーリーを感じることができる宿泊施設やコンベンション施設等



# 1. 基本的な考え方

## 活用し続けるために必要なこと

- 単に新しい機能（活用の可能性【種】）を導入するだけでなく、機能を十分に発揮する、持続的に発揮し続けるために、必要なことがあることに留意する。
- いわば、種を育てるための、水・光・養分といった要素である。

【種を育てるための水・光・空気・養分】

【懇談会における議論】

【ワークショップからの具体的なアイデア】

### 存在・価値を共有・広める

- 被服支廠の存在が県民の宝であることを共有し、広めていく

- 被服支廠の認知度は、現時点では高くなく、まず、存在・価値を知ってもらうことが重要
- 活用が活発になると、多くの人を訪れ、さらに関心認知度も上がり好循環を期待

- イベントや講演等による、被服支廠の価値等を知ってもらう機会づくり
- 教育における題材として取り上げる
- ホームページ、SNS、ポータル等の媒体でのPR
- TV番組やロケ地等としての放映の機会づくり
- 分かり易い、知ってもらいやすいネーミング等

### 協働で取り組む

- 活用方法に応じた多様な人・主体（行政・団体・民間事業者・個人）の参画、関与の仕組みをつくる
- 周辺地域との関わりを増やし被服支廠とともにまちを育てていく

- 様々な方向で考えられる活用方法に応じ、必要な人・主体が関わる仕組みや体制等を整えることが重要
- 地域と関わりながら、被服支廠と共にまち・広島を育てていくという姿勢が重要

- 国、県、広島市、民間が連携する体制を構築
- 専門家等とのつながりをつくる
- ガイドの育成・組織づくり
- 民間のニーズを聞きながら、巻き込んでいく等

### 時代に応じた環境・空間を創る

- 交通網など、被服支廠の活用を進める上での訪れやすく・滞在しやすい環境を整える
- 被服支廠の空間を活かしつつ、時代の変化に対応した設備を整備していく

- 活用を支える土台となる、訪れやすく、滞在しやすい設備等の環境を整えることが重要
- これらの環境整備は、時代の変化に対応できる柔軟さを備えていることが重要

- 電気、水道、トイレ、駐車場などを整備
- 市電の駅からのバスやシェアサイクルを導入
- 将来の活用に向けて、活用しない空間を残しておく等

### 持続的な活動を支える資金を確保する

- 活用に必要な資金を確保する
- 運営・設備の更新、時代の変化に応じた新たな機能の導入のため、行政からだけでなく資金を持続的に確保していく

- 新たな機能の導入や、持続的な運営には、相応の資金が不可欠
- 行政からの資金には限界があることから、活用の中で資金を捻出することや、活用の主体等が資金を確保することが重要

- クラウドファンディングで資金を集める
- 民間企業により、被服支廠で稼げるような機能を導入
- 被服支廠家計簿（将来の収益化まで話し合い、みんなで集める）等

# 1. 基本的な考え方

守る

将来にわたって 「被服支廠の存在を活かしていく」  
「被服支廠の価値を継承していく」  
「歴史と平和の大切さを伝えていく」

- 活用を進めるにあたって、将来にわたって守り続けることを忘れてはならない。
- 被服支廠の建物そのものを守るだけでなく、その価値や歴史、文化的背景も守っていく必要がある。
- 守り続けるためには、時代の変化の中で変えたほうが良いもの、変えてはいけないものを検討し続ける必要がある。

## 被服支廠の存在を活かしていく

- 被服支廠自体（構造物）が存在し続ける
- まちなかの巨大な空間 等

## 被服支廠の価値を継承していく

- 建築物としての価値
- 重要文化財級と言われる文化的価値
- 被爆の痕跡が残る被爆建物としての価値 等

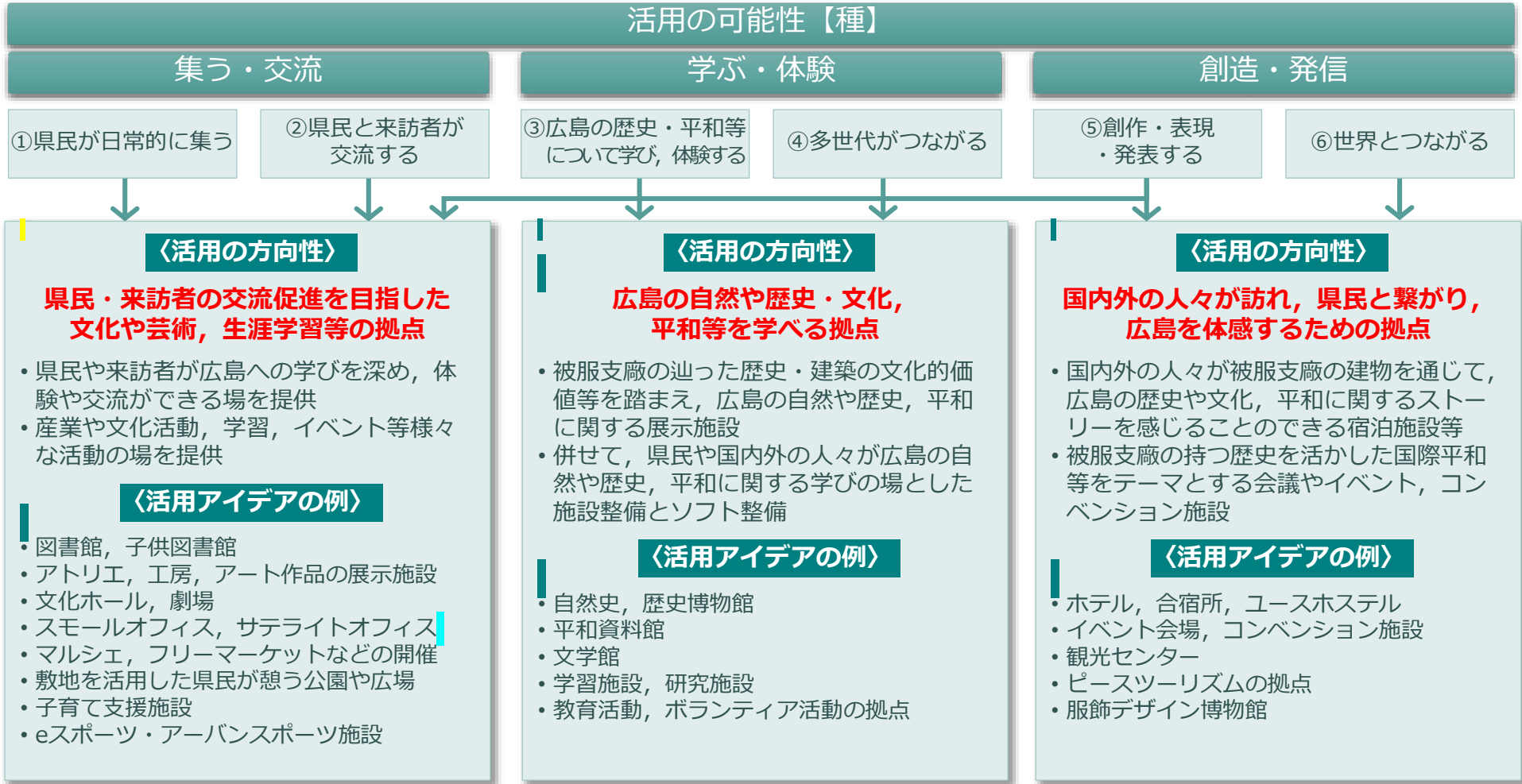
## 歴史と平和の大切さを伝えていく

- 広島を語る建築物であること
- 被爆直後に、被爆者救護のための臨時救護所となったこと 等

# 2. 活用の方向性

育てる 将来にわたって 様々な種を時代の変化に即しながら育てていく

- 実際の活用にあたっては、被服支廠の巨大な空間に、様々な機能が複合的に導入されることが現実的。
- 新しい機能（活用の可能性【種】）を基に、具体的な活用のアイデアを踏まえて、「活用の方向性」を3つの柱として取りまとめた。
- なお、具体的な活用内容については、国・県・広島市で構成する研究会において、被服支廠の最終的な活用策の議論・検討を行っている。



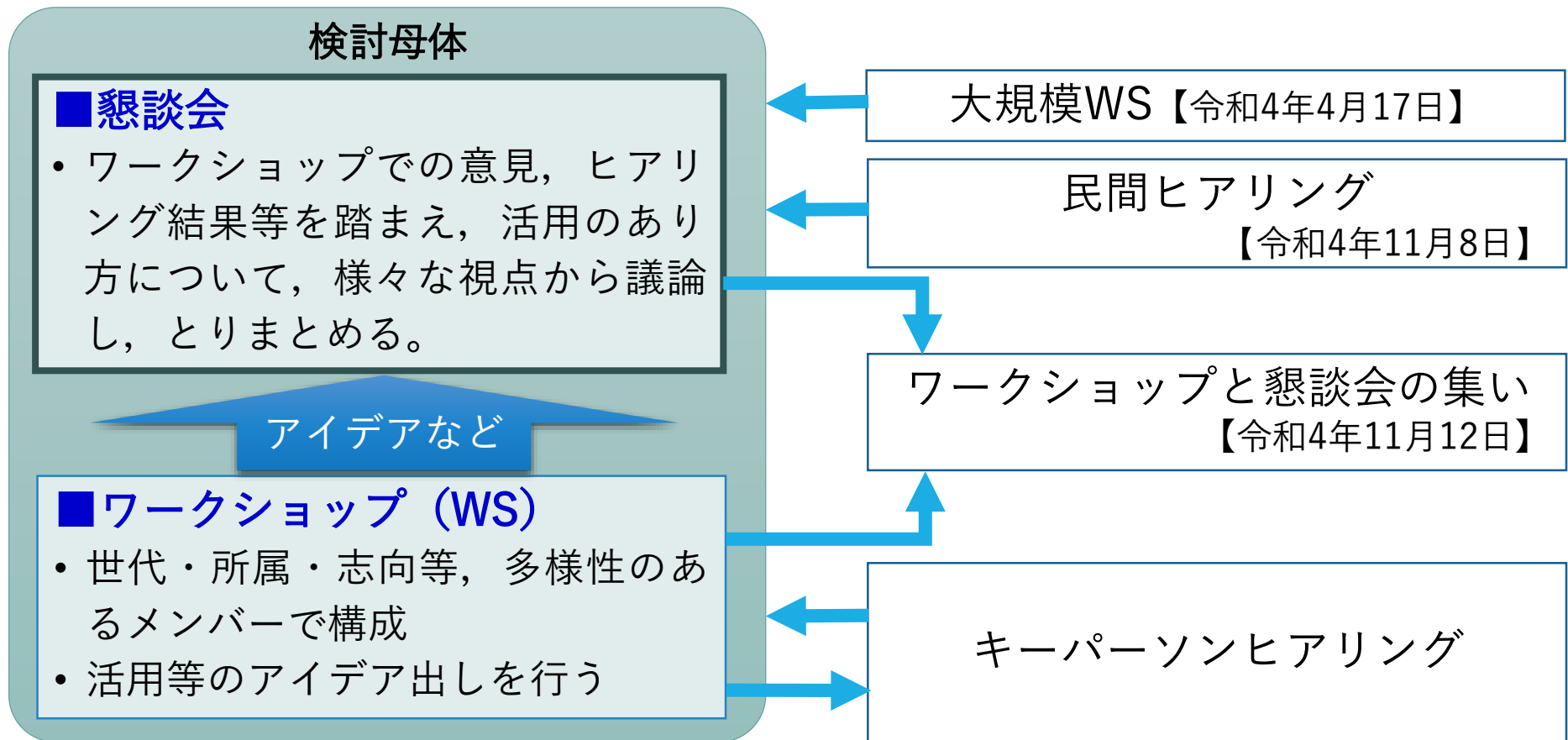
※ここで示した「活用アイデアの例」はワークショップや懇談会で出たアイデアであり、活用を決定したものではない。

- 本報告は、来年度以降、国・県・広島市で構成する研究会において、被服支廠の最終的な活用策の議論・検討における基礎的な資料として位置付けられる。懇談会委員、ワークショップ参加者等の意見を結集して作成した本成果を十分に活かし、歴史・文化遺産としての価値を維持しつつ、持続可能な形での活用が実現されることを期待する。
- 被服支廠が戦後も活用され続け、戦後の広島教育や産業の復興の原動力となった歴史を振り返ると、今後の被服支廠の活用は、敷地や建物を活用するのみではなく、周辺のまちづくり、ひいては、広島の価値の向上に繋がる視点が必要であると考えられる。活用に向けては、県民等に適切に情報を発信するとともに、地元自治体である広島市や南区と関わりを深めながら、検討を進めていくことが適当であると考えられる。
- 活用に向けた、民間（事業者等）の関与は重要である。民間（事業者等）の関わり方について、継続して検討を進めていくことが適当であると考えられる。
- 本検討に関わったワークショップ参加者をはじめ、被服支廠に関心がある方々の機運は高まっている。維持・補修、設備等の導入検討と並行し、県民等が主体となって、活動・交流しつつ、育てていく場所となることが望まれる。

旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会 会長 岡田 昌彰

推進体制

- 被服支廠の活用に関する基本的な考え方と活用の方向性等の検討においては、以下のような推進体制によって県民・市民の意見を聞き取りながら幅広い専門家等を招聘し検討を進めた。



懇談会委員名簿（懇談会コア委員）

（敬称略，五十音順）

氏名	所属等	専門分野
安部 良	安部良アトリエ一級建築士事務所 主宰 総務省地域力創造アドバイザー	建築
岡田 昌彰	近畿大学 社会環境工学科 教授	景観工学 産業遺産
佐渡 紀子	広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授	国際政治・平和学
田中 尚人	熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授	公共空間 マネジメント
積山 ミサ	特定非営利活動法人 PRESENTsHIROSHIMA 顧問	文化・芸術
平尾 順平	特定非営利活動法人 ひろしまジン大学 代表理事	地域・まちづくり
前野 やよい	広島市郷土資料館 主幹学芸員	郷土史
光井 渉	東京藝術大学 美術学部長 建築科 教授	日本建築史 文化財保存

## 懇談会の開催状況

- 本懇談会は全6回開催し、旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性について検討を行った。

回	日程	会議内容
1	令和3年11月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 懇談会の進め方</li> <li>● ワークショップの進め方等</li> </ul>
2	令和4年1月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史や価値を踏まえた活用を進めるためのポイント</li> </ul>
3	令和4年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用に向けた基本的な考え方・アイデア</li> </ul>
4	令和4年7月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用に向けた基本的な考え方・具体的なアイデア</li> </ul>
5	令和4年12月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用の方向性のとりまとめに向けた意見交換</li> </ul>
6	令和5年3月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用の方向性のとりまとめ</li> </ul>

## 広く県民等からいただいた意見（ワークショップの成果）のまとめ

	活用の可能性【種】	導入機能・施設	具体的な活用され方のイメージ
集う・交流	① 県民が日常的に集う  日常的に憩い、集える空間として使うことができる図書館や多目的ルーム、アーバンスポーツ施設等	平和等をテーマに小さいときから足を運べるような <b>図書館、子供図書館</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小中学生が校外学習、遠足で訪れる。</li> <li>● 収蔵庫にある本、沢山の本を開架式書庫で保管し、広島市の歴史や平和に関する本を自由に読むことができる。</li> </ul>
		気軽に子どもが集まって勉強を教えようとする <b>自習室</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被服支廠で泊まり込みすることで間接的に建物の歴史や平和を感じながら学習ができる。</li> <li>● 被服支廠内で子ども同士が学び教えあう、年長者から広島市の歴史等を教えてもらう。</li> </ul>
		多世代が集まり安心が得られる <b>子育て支援施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学童保育や児童館とサービスの複合施設とすることで世代を超えた人々が集まる。</li> <li>● 子どもと高齢者の触れ合いによって保護者が安心して施設を利用させることができる。</li> </ul>
		近隣住民が自発的に使い、交流できる <b>スモールオフィスやサテライトオフィス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これから事業を始めようとする人が集い、様々な人との交流や体験をしながらスモールビジネスを起業する。</li> <li>● 地域住民がテレワークで利用したり、学生が就業体験したりできる。</li> </ul>
		被服支廠を知るきっかけや、愛着を育む場となる <b>遊び場・イベント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くの子どもが集える遊び場やイベントが開催され、被服支廠を知るきっかけとなる。</li> <li>● 子どもや若者など、様々な年代をターゲットとしたイベントが開催される。</li> </ul>
		流行の先端をいく <b>eスポーツ、アーバンスポーツ施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちが安全にeスポーツを楽しんだり、アーバンスポーツ（スケートボードなど）の練習ができる。</li> </ul>
	② 県民と来訪者が交流する  県民・来訪者ともに気軽に立ち寄り、交流することができるマルシェや公園・広場、観光センター等	地域の出会いの場や対話の場となる <b>多目的ルーム・カフェ等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣住民が、飲食を持ち込んで井戸端会議をしたり、アーティストの方が演奏する音楽が流れているような静かな雰囲気のカフェやレストランで、平和について話し合う。</li> <li>● 学生が課外活動をしたり、公共施設やコインランドリー、家庭菜園等を介した地域の人々の日常のコミュニケーションの場となる。</li> </ul>
		県民が日常的に利用する <b>行政手続きの場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市役所や県庁の出張所、パスポートセンターなど、県民が日常的に利用することで被服支廠を知るきっかけとなる。</li> </ul>
		被爆建物や平和教育への関心の有無にかかわらず、近隣住民も来訪者も立ち寄りやすい <b>マルシェ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 時期によって様々なテーマでマルシェが開催される。</li> <li>● カフェやキッチンカーが出店され、県民と来訪者が飲食をしながら会話を楽しむことができる。</li> <li>● 広島ならではの特産品・民芸品・工芸品や、被服支廠を家でも思い出せるようなお土産が販売される。</li> </ul>
		広島観光の拠点となる <b>観光センター</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンシェルジュが常駐し、観光客のニーズと体験や学びのマッチングをしている。</li> </ul>
学ぶ・体験	③ 広島市の歴史・平和等について学び、体験する  広島市の歴史や自然、平和、被服支廠の建築的な価値等を学び、継承する資料館・博物館、それを活かした体験をすることができる様々なツアーの拠点等	建物の周囲を活用した <b>公園や広場空間</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑豊かな公園・広場で子どもたちが遊んだり、大人たちが散歩や運動したりしながら、被服支廠の価値を知ることができる。</li> <li>● 外国人観光客が、被服支廠だけでなく広島の人々の暮らしを目にすることができる。</li> </ul>
		広島の歴史や被服支廠の空間を活かした <b>イベント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空間が開かれ、海外のアーティストから地域の子どもまで多様な人々が気軽に集まり、音楽・演劇等の偶発的なイベントが行われている。</li> </ul>
		関心のない人も、平和や歴史等に興味を持ってもらえるような仕掛けを持つ伝承の場となる <b>資料館・博物館</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広島市の自然・環境や歴史・戦前の暮らし、被服支廠の建築物としての価値、被服支廠での仕事の様子がわかるジオラマや、3D映像、音など五感に訴える展示・体験を通して、広島を学ぶことができる。</li> <li>● 平和に関する資料（被爆資料含む）展示・収蔵を行う。</li> <li>● 平和に関する資料（被爆資料含む）がデジタル化されてアーカイブとして蓄積されており、簡単に閲覧できる。</li> <li>● 被爆建物のその後の利用等が解説され、平和に思いをはせる場所として活用できる。</li> </ul>
		平和や戦争、核兵器に対する多様な視点から学ぶ <b>文学館や絵画等の展示施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原爆や被爆に関する文学や映画、絵画、絵本作品等に触れることができ、平和について多様な視点から考える場となる。</li> <li>● 記録映画等を鑑賞できるとともに、平和・広島市の歴史等を学んだ方が想いを表現した絵画等を展示する。</li> </ul>
		広島の歴史・文化等に触れられる <b>体験施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鎮魂の意味を含め、ブランド化された日本酒が保存・管理されている。</li> <li>● 子どもたちの思い出になるような、被服づくりや工芸品づくりの体験ができる。</li> </ul>
		まちづくりの活性化を促す <b>地域や商店街との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商店街や周辺地域とのつながりを生む仕掛けとして、皆実町中通商店街などと連携したオシャレな散策マップやグルメマップが配布され、訪れた人が自転車等で回遊する。</li> <li>● 来訪者が他の被爆建物や重部広島を構成する遺産をスタンプラリーで巡ることができる。</li> </ul>
被服支廠が持つストーリーから平和や継承を考えると、 <b>様々なツアーの拠点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被爆者が数多く訪れた被爆建物という特別な空間に想像力を掻き立てられながら、被爆体験を聞くなどして、平和を考えることができる。</li> <li>● 建設当時や被爆時の様子を復元するのと併せ、時間の経過による建物の変化も保存され、内部見学をしながら被服支廠が持つストーリーを体感することができる。</li> <li>● 新たなものは設置せず現状のままの大空間で、負の歴史と向き合いながら、将来への継承・活用の方法を考える。</li> <li>● 被爆建物や周辺の戦争遺産などを巡るピースツーリズムや様々なツアーの拠点として、宿泊や情報収集、レンタサイクル・クルーズツアー等の手配をすることができる。</li> </ul>		
被服支廠以外の遺産も併せ、当時や平和に思いを巡らせる <b>パッケージツアー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レンタサイクルやクルーズで、軍部広島や瀬戸内海一帯の戦争遺産を巡るターツーリズムが企画され、参加者は体感を通して当時の様子や平和に思いを巡らせる。</li> </ul>		



## 広く県民等からいただいた意見（ワークショップの成果）のまとめ

	活用の可能性【種】	導入機能・施設	具体的な活用され方のイメージ
学 ぶ ・ 体 験	④多世代につながる  多様な世代が交流しながら学び、様々な活動に利用できるサテライトキャンパスやボランティアの拠点等	建築物としての価値や魅力に勝れながら、建築を学ぶことができるサテライトキャンパスやギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築系の学生が集い、被服支廠の建築的価値や魅力を肌で感じながら、学習や作品制作等の場として活用する。</li> <li>建築に特化したギャラリーとして、被服支廠が持つ建築的な特徴や技術を学びながら、他の建築家の作品等も見ることができる。</li> </ul>
		若い世代が歴史に触れながら活動できる教育活動・ボランティアの拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺の学校と連携し、学生たちが学習発表会や文化祭等で活用する。</li> <li>地域の学生をはじめとした若い世代が地域活動やボランティアの拠点として活用する。</li> <li>地元の学生と修学旅行生が交流しながら、平和を学び、考えることができる。</li> </ul>
		子どもを中心に多様な世代が遊んだり、体験しながら学ぶことができる施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが職業体験を楽しみながら、被爆や戦争に関することを知るきっかけになる。</li> <li>地元の名物（もみじ饅頭や牡蠣等）作りやプログラミング等の体験を通して、多様な世代が触れ合いながら学習する場となる。</li> </ul>
		子どもや若い世代の創造力を高め、未来に向けた学びや創造の拠点となる学習・研究施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生や研究者が泊まり込みで学習・研究に集中して取り組む。</li> <li>広島の高校・大学の学生が共同で利用できるITラボや、コンベンション・パフォーマンスの場として、未来に向けた広島の新しい価値を生み出す。</li> <li>子どもが自分で撮った写真を現像したりして、作品を生み出す体験ができる。</li> </ul>
創 造 ・ 発 信	⑤創作・表現・発表する  多様な価値観で創作・表現活動、発表ができるアトリエや展示施設、イベントホール、劇場、AI・IT産業の拠点等	デザイナーやアーティスト、それを目指す地元の人々の活動の場となり、活躍を後押しするアトリエ・工房	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界中から来たアーティストが滞在し、被服支廠の空間に創造力を刺激されながら平和を象徴するアート制作の拠点として創作・展示活動を行うことができる（アーティスト・イン・レジデンス）。</li> <li>地元のデザイナーやアーティストを育て、活躍を後押しする場として継続的に活用される。</li> <li>様々なアート活動や伝統文化に関するワークショップ等が開催され、関心を持つ人々が集まる。</li> </ul>
		被服支廠の建物の歴史や空間を活かしたアート作品の展示施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の空間を活かし、被爆建物であることを踏まえた追悼や記憶に関する作品が展示され、来訪者が平和に思いをめぐらすことができる。</li> <li>大空間を活かした建物と融合したアート作品など、平和に関する多様な表現を受け入れる場となるとともに、来訪者にとっては建物の価値も感じながら平和を想う場となる。</li> </ul>
		歴史を未来へと繋ぐAI・IT産業の拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速大容量の通信回線が整備され、AIなどに関するスタートアップの活動拠点となる。</li> </ul>
		被服を扱っていた歴史を伝承し、未来につなげるファッション博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界や日本、広島における被服の歴史を学ぶとともに、広島が生んだファッションデザイナー（三宅一生さん）などについても知ることができる。</li> <li>ファッションブランドのロケーション撮影の場として活用される。</li> <li>地球環境や人、社会に対して配慮された服を制作することで、持続可能な被服文化の継承を発信する。</li> </ul>
		大空間や広島にしかない歴史・価値を活かしたイベントホール・劇場	<ul style="list-style-type: none"> <li>被爆ピアノを常設し、世界中の交響楽団とコラボした平和へのメッセージを表現するコンサートが開催される。</li> <li>様々な劇団が平和にまつわる演劇を上演したり、地元の劇団が稽古場として活用したりする。</li> <li>広島を舞台としたアニメの上映や、原爆や平和に関する芸術を体感するワークショップにより、気軽にアートに触れることができる。</li> </ul>
⑥世界とつながる  国内外の人々が被服支廠の建物を通して平和の大切さや歴史文化など様々なストーリーを感じることができる宿泊施設やコンベンション施設等	国内外からの来訪者が宿泊し、県民と交流できる宿泊施設やユースホステル	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者が観光のあとに歴史的な建物・被爆建物への宿泊体験ができ、平和について考えることができる。</li> <li>来訪者と県民が寝食を共にし、交流する。</li> </ul>	
	被服支廠が持つストーリーを活かした国際平和をテーマとした会議・イベント・コンベンション施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>核兵器や紛争、平和に関する国際会議が開かれ、参加者それぞれが被爆当時の状況や平和の大切さなどに思いを巡らせながら会議に臨むことができる。</li> <li>平和をテーマに、世界と日本が繋がる交流イベントが開催される。</li> </ul>	

# 広く県民等からいただいた意見（ワークショップの成果）のまとめ

## 【① 被服支廠の存在価値を共有、広めるために今からできることは？】

分類		誰が、何をする
広報 ・ 発信	HP	● 被服支廠活用に向けて公式HPをつくる
	SNS	● 公式SNSやYouTubeチャンネルを使って広める ● 各自のSNSやツイッターで発信する
	TV	● TV局等に番組やロケ地として施設内外を放映してもらう
	出版 ・ 広報	● 民間や行政にパンフレットを作成してもらう ● 町内会が回覧板でアピールする ● 被服支廠の本を発刊してもらう ● 市報や公民館など、地元の方々へ向けた情報を発信する
	学校 ・ 教育	● 学生・学校を通じて校外学習や掃除を実施する ● 学校の回覧を活用し、各家庭に紙媒体で発信する ● 小学校の社会科見学として、学校や教育委員会の負担を軽減しながら導入しやすくするために、スモールパッケージ化したツアーを企画する ● 小学生に価値を伝えるために、ミステリーツアーを大学生が企画する
見学会	● 定期的に一般の人も参加できる現地見学会（勉強会）を開催する	
イベント	● 行政が主催・講演するイベント等で、被服支廠を知ってもらうためのPRブースを出す ● 被服支廠でイベントやワークショップを開催する ● 図書館などの公共施設で被服支廠について展示する	
観光 ガイド	● 被服支廠を観光バスの周遊ルートに追加する（観光事業者に打診する） ● 県外の方なども観に来ることができるよう、オンラインバーチャルツアーを開催する	
設備を整える	● トイレなど最低限の設備を整えるためのリノベーションを行う	

### 自分ができること

- その存在を私のグループ内にSNS等で知らせる
- SNSに「#被服支廠」でつぶやく
- 被服支廠の絵を描く
- 広告やパンフレットなどのデザインを描く
- 町内会や社会福祉協議会に協力を仰ぐ
- 建築学生を巻き込んで被服支廠活用のコンテストを実施する
- 全国の新聞部仲間に呼びかける
- 被服支廠のボランティアガイドをする
- 外国の方をガイドする
- 東北震災被災地の方々とはつながりがあるので、広島に来られた際に案内する
- 東京蚤の市に何度も出店経験があり主催者ともつながっているため、大規模の蚤の市を開催する
- 高校生イベントを告知する
- 高校のPTAでの協力を仰ぐ

広く県民等からいただいた意見（ワークショップの成果）のまとめ

【② 被服支廠の活用を進めていく上で必要となる取組は？】

分類	主体(誰が)	何をする
人材・組織体制	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 語り部、観光ガイド等のボランティア人材を確保する</li> <li>● 専門家や知識を持った人など、プロとのつながりをつくる</li> <li>● 国、県、市、町、民間が連携する体制を構築する</li> </ul>
	民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 樽募金のように、大手民間のニーズを聞きながら、民間を巻き込んでいく</li> <li>● ガイドのグループをつくり、定期的に勉強会を行う</li> <li>● スポンサーをつける（社員の方に優待券などの特典をつける）</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイドや管理のNPO法人をつくる</li> </ul>
人・空間のネットワーク	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元へ愛着を持ってもらうために、近隣の学校とのネットワークをつくる</li> <li>● 市電の駅から直行のバスやピーすくる（広島市のシェアサイクルシステム）を導入する</li> <li>● 産業振興課を巻き込み、倉庫・冷凍庫であった特性を活用したテーマ性のある貯蔵庫として利用する（酒造×平和×鎮魂）</li> </ul>
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 博物館をつくるために平和祈念資料館等、市との連携を進める</li> </ul>
教育・体験	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもへのアプローチとして、教育における題材として取り上げる</li> </ul>
資金	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物を維持するための資金として、被服支廠で稼げるような機能を併設する</li> <li>● クラウドファンディングで集める</li> <li>● 被服支廠の家計簿づくりをする（将来の収益化まで話し合う場をつくり、ソフト・ハード等、異なる資金源ごとにチームを分けてみんなで集める）</li> </ul>
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 条例を制定し、保存のための恒久的な財源を確保する</li> <li>● 今まで被爆者の福祉として使われていたお金を建物に充てていく</li> </ul>
設備	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外からでも壁内の状況が見えるようにし、オープンな雰囲気にする</li> </ul>
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気、水道、ガス、トイレ、洗面、駐車場などを整備する</li> </ul>
情報発信	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特設サイトを設置し、活用を考えていることを広める</li> </ul>
その他	行政・民間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被服支廠の活用に向けた活動の頻度を決め、現実的にゆっくり開業する</li> <li>● 公的資金を使わず、来訪者が持ち寄った本で、自分事になる図書館をつくる</li> </ul>
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重要文化財の指定を進める</li> </ul>

自分ができること

- イベント等を実施するために人や団体を巻き込み協働し、ネットワークをつくる
- 木製家具を販売する企業とのつながりがあるので、協力を仰ぐ
- 広島青年会議所として、イベントの企画・実行に携わる

- 投稿を拡散する

# 被服支廠の活用の可能性に関する事例整理の視点

- 今後の活用の検討の参考として、国内におけるレンガ建築や歴史的建造物の活用事例を新しい機能（活用の可能性（種））との関係により整理した。

類型	活用の可能性【種】	機能・コンテンツ
集う・交流	① 県民が日常的に集う	日常的に憩い、集える図書館や多目的ルーム、子育て支援施設、スモールオフィスやサテライトオフィス、アーバンスポーツ施設等
	② 県民と来訪者が交流する	来訪者が気軽に立ち寄り、交流できるマルシェや公園・広場、観光センター等とあわせ、歴史や施設の空間を活かしたイベントの実施
学ぶ・体験	③ 広島歴史・平和等について学び、体験する	歴史や自然、平和、施設の建築的な価値等を学び、継承する資料館・博物館、それを活かした体験
	④ 多世代がつながる	多様な世代が交流しながら学び、様々な活動に利用できるサテライトキャンパスやボランティアの拠点等
創造・発信	⑤ 創作・表現・発表する	多様な価値観で創作・表現活動、発表できるアトリエ・工房や展示施設、イベントホール、劇場、AI・IT産業の拠点等
	⑥ 世界とつながる	国内外の人々が歴史的建造物を通じて歴史文化など様々なストーリーを感じることができる宿泊施設やコンベンション施設等

所在地	事例施設	①	②	③	④	⑤	⑥	視点の解説
		集う	交流	学ぶ	交流多世代	表現・創作	世界	
青森県弘前市	弘前れんが倉庫美術館	○	○		○			レンガ倉庫2棟を④展示空間と①②シールド工房・カフェに転用
東京都港区	郷土歴史館等複合施設「ゆかしの杜」	○		○	○			③歴史資料を展示する郷土歴史館や①子育て支援、④区民協働施設に転用
奈良県奈良市	旧奈良監獄		○	○			○	旧監獄⑥ホテルを転用、②③史料館・飲食店等を併設
福井県敦賀市	敦賀赤レンガ倉庫	○	○	○				レンガ倉庫2棟を③歴史を学べるジオラマ館、①②レストラン棟に転用
大阪府大阪市	MIRAIZA OSAKA-JO	○	○				○	大阪城公園内に位置する司令部庁舎を①②カフェ・ショップ・レストラン等に転用
石川県金沢市	石川県立歴史博物館【金澤陸軍兵器支廠兵器庫】	○		○	○			旧陸軍兵器庫を③博物館に転用、①④交流体験館を併設
茨城県牛久市	シャトーカミヤ 旧醸造場施設	○		○				ワイン醸造施設を③史料館に転用、①レストランを併設
北海道函館市	金森赤レンガ倉庫	○	○			○		運輸会社のレンガ倉庫群を①②チャペル・カフェ・ショップ、⑤多目的ホールに転用
京都府舞鶴市	舞鶴赤レンガ倉庫群	○	○	○		○		旧海軍倉庫5棟を③博物館、①②レストラン・ショップ、⑤工房・ホール等に転用
群馬県富岡市	旧富岡製糸場			○		○	○	世界遺産登録された旧製糸場を③展示室、⑤⑥多目的ホールに転用
兵庫県神戸市	兵庫県公館【旧兵庫県庁舎】			○			○	旧県庁舎を⑥迎賓館、③史料館に転用
愛知県名古屋市	名古屋市市政資料館			○				旧裁判所を③史料館に転用
兵庫県神戸市	KIITO (デザイン・クリエイティブセンター神戸)	○	○			○		旧生糸検査所を⑤ホール・ギャラリー、②レストラン、①会議室・オフィスに転用
岡山県倉敷市	倉敷アイビースク【倉敷紡績旧工場】		○	○		○	○	紡績所⑥ホテル、②レストラン・ショップ、⑤体験工房、③歴史館に転用
兵庫県神戸市	神戸煉瓦倉庫 HARBOR STORES		○			○		運輸会社のレンガ倉庫群を②レストラン・ショップ、⑤ライブハウス等に転用
東京都北区	北区立中央図書館（旧東京砲兵工廠銃砲製造所）	○			○			旧陸軍砲兵工廠を図書館に転用、①④交流体験館を併設
兵庫県洲本市	S-BRICK	○	○					紡績工場を②レストラン・カフェ、①キッズスペースに転用
広島県呉市	澎湃館【昭和町れんが倉庫群】	○		○				旧海軍倉庫を①カフェ・ショップ、③資料室に転用

※事例中の事業費等については、事例により工事内容などが異なることから一律に比較できるものではない。

## 弘前れんが倉庫美術館（吉野町煉瓦倉庫）

### 施設概要

敷地面積：3,985㎡（緑地部分6,778㎡）  
 建築面積：1,694㎡  
 延床面積：3,089㎡ 地上2階建  
 活用用途：芸術文化施設（アート展示、市民活動・交流）、  
 カフェ、ショップ、シードル工房、緑地

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1907（明治40）年  
 ～1923（大正12）年頃：日本酒の醸造工場・貯蔵倉庫として建設  
 1965（昭和40）年：酒造工場としての稼働停止  
 1978（昭和53）年  
 ～1997（平成9）年：政府米の保管庫として使用  
 1988（昭和63）年頃～：「煉瓦館再生の会」活動  
 2002（平成14年）  
 ～2006（平成18）年：奈良美智による展覧会を3度開催  
 2014（平成26）年：地元経済・文化団体から倉庫の美術館整備に関する要望書の提出  
 2015（平成27）年：市が土地・建物を取得  
 2020（令和元）年：美術館として開館

文化財指定：なし

受賞歴：フランス国外建築賞・グランプリ（2021年）  
 BELCA賞（2023年）

### 事業費・事業手法

改修費：25億2862万円※うち国費11億6933万円（都市再構築戦略事業）  
 維持管理運営費：16億8100万円（15年間）※公募時点の上限金額  
 事業手法：PFI事業（RO事業+独立採算付帯事業）  
 事業期間：PFI事業17年9か月間（設計・建設2年9か月、運営維持管理15年間）、付帯事業（定期借地）21年間



内装



外観



ライブラリー



カフェ・シードル工房

## 郷土歴史館等複合施設「ゆかしの杜」

### 施設概要

敷地面積：11,173.17㎡  
 建築面積：2,823.16㎡  
 延床面積：15,155.20㎡ 地下1階 地上6階 塔屋4階  
 活用用途：郷土歴史館・がん在宅緩和ケア支援センター・子育て関連施設（学童クラブ・子育てひろば・みなと保育サポート等）・区民協働スペース 等



外観



中央ホール

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

昭和13（1938）年：公衆衛生院として建設  
 平成21（2009）年：港区が土地と建物を虎ノ門3丁目旧鞆絵小学校跡地との換地で国から取得  
 平成30（2018）年：港区立郷土歴史館・がん在宅緩和ケア支援センター・子育て関連施設等の複合施設として開館



旧講堂



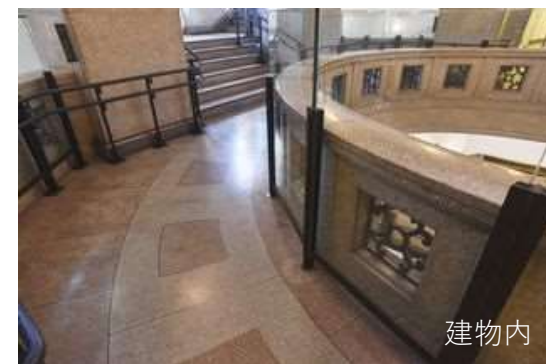
旧院長室

#### 文化財指定：港区指定有形文化財

受賞歴：  
 2021年 東京建築賞（優秀賞）  
 2020年 日本建築学会賞（業績）  
 2020年 第29回BELCA賞ベストリフォーム部門  
 2019年 第8回耐震改修優秀建築表彰（国土交通大臣賞 耐震改修優秀建築賞）  
 2019年 照明普及賞



建物内



建物内

### 事業費・事業手法

総工事費：80億8800万円（管理費込み）  
 維持管理運営費：106,517,821円（施設管理経費のみ）  
 事業手法：指定管理（公設民営）  
 工期：2016年10月～2018年2月

## 旧奈良監獄

### 施設概要

敷地面積：100,478.80㎡  
 建築面積：12,555.00㎡  
 延床面積：19,292.00㎡ 地上2階・地下1階  
 活用用途：ホテル、物販飲食、史料館等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治41(1908)年：明治政府が監獄の国際標準化を目指して計画した五大監獄（千葉、長崎、鹿児島、金沢、奈良）の一つで、唯一現存  
 山下啓次郎（司法省営繕課長）設計  
 平成28(2016)年度：耐震性の問題などにより、未で廃庁（閉鎖）  
 平成29年2月：歴史的価値が高く、意匠的にも優秀との評価（重要文化財指定）

文化財指定：重要文化財指定（平成29年2月）

### 事業費・事業手法

**事業者**：旧奈良監獄保存活用株式会社  
**事業手法**：公共施設等運営権（コンセッション）制度を活用して、重要文化財「旧奈良監獄」の保存・活用を行う事業  
**契約期間**：平成29年12月8日から平成62年3月31日まで  
 延長オプション30年以内  
 不可抗力等による延長を含めて最長平成97年3月31日まで  
**竣工**：令和7年3月31日 竣工  
**運営権対価**：6,000万円



<庁舎>



<表門>

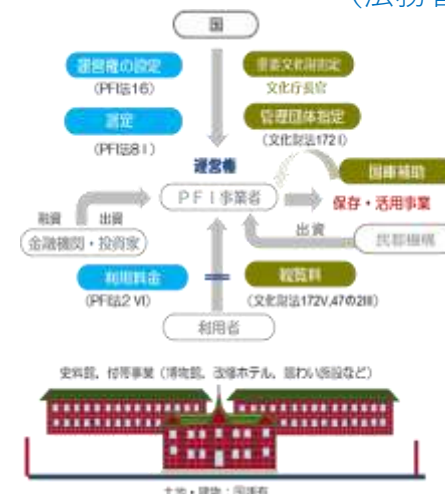


<中央看守所>



<舎房>

（法務省ホームページより）



## 敦賀赤レンガ倉庫

### 施設概要

敷地面積：2685.18㎡  
 床面積：1,211.31㎡  
 棟数：2棟 平屋建て  
 活用用途：ジオラマ館、レストラン館、オープンガーデン

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治38年（1905年）：石油貯蔵用倉庫として建設  
 昭和19年（1944年）：軍の備品倉庫として使用  
 昭和26年（1951年）：現ヤマトタカハシ株式会社が営業倉庫として赤レンガ倉庫を購入  
 平成15年（2003年）：日本原子力発電株式会社が購入し、敦賀市へ寄附  
 平成27年（2015年）：北棟が「ジオラマ館」、南棟が「レストラン館」となり、オープンガーデンを併設した「敦賀赤レンガ」としてオープン

文化財指定：国登録有形文化財（2009年）

### 事業費・事業手法

事業手法：指定管理  
 総工費：約11億円（うち国庫約5億円）  
 工期：平成26年～平成27年（10月オープン）  
 維持管理運営費：年間約6,000万円（H29～R3年度平均）  
 事業期間：1期目：平成27年10月～平成30年3月（3ヵ年）  
 2期目：平成30年4月～令和3年3月（3ヵ年）  
 3期目：令和3年4月～令和8年3月（5ヵ年）



外観



外観



ジオラマ館



ジオラマ館



レストラン館



オープンガーデン



## MIRAIZA OSAKA-JO

### 施設概要

建築面積：1,706㎡

延床面積：約7,000㎡ 地上3階 地下1階

活用用途：カフェ、ショップ、レストラン、  
総合案内所、展示室 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

昭和6年（1931）：第四師団司令部庁舎として建設  
戦後～：大阪市警視庁、大阪府警本部として使用

昭和35年（1960）～  
平成13年（2001）：内部を改装し、大阪市立博物館として使用

平成29年：MIRAIZA OSAKA-JO開業

文化財指定：なし

受賞歴：「DSA日本空間デザイン賞2018」入選

### 事業費・事業手法

事業手法：パークマネジメント事業（PMO事業）

事業期間：20年



外観



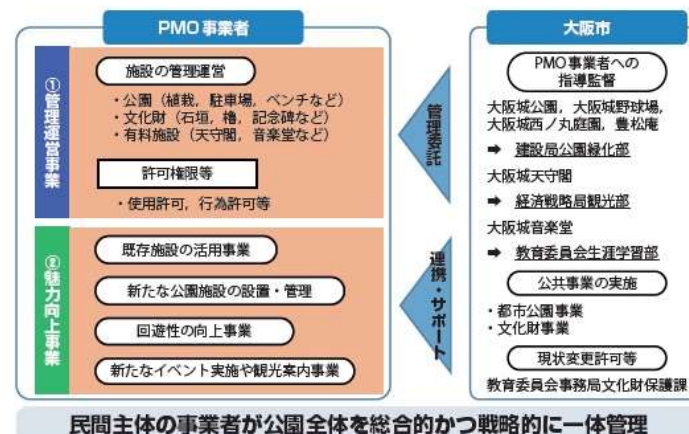
外観



内装



内装



## 石川県立歴史博物館【金澤陸軍兵器支廠兵器庫】

### 施設概要

敷地面積：26791.46㎡

建築面積：1,322.3㎡

延床面積：第一棟 2767.83㎡

第二棟 2721.76㎡

第三棟 2249.79㎡ 地上2階建

活用用途：歴史博物館（歴史発見館、交流体験館（歴史体験ひろば・多目的ホール・ラウンジ・ショップ・ギャラリー・ワークショップルーム等）、本多博物館

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1909(明治42)年：第5砲兵器庫（第3棟）建築

1913(大正2)年：第6砲兵器庫（第2棟）建築

1914(大正3)年：第7砲兵器庫（第1棟）建築

1946(昭和21)年：金沢美術工芸専門学校（現：金沢美術工芸大学）の校舎として使用

1972(昭和47)年：金沢美術工芸大学の移転に伴い、県が所管

1986(昭和61)年：石川県立歴史博物館として開館

2015(平成27)年：第3棟の西側半分を利用する加賀本多博物館と合わせて、いしかわ赤レンガミュージアムとしてリニューアル

文化財指定：国指定重要文化財（1990年）

受賞歴：日本建築学会賞（1991年）

### 事業費・事業手法

総工事費：約22億円（建築設備12億円、展示工事8億円、外壁改修工事2億円）

事業手法：工事種別毎に委託、運営は業務委託

事業期間：平成25年9月～平成27年3月（建築・展示工事）



外観



建物内



常設展

## シャトーカミヤ 旧醸造場施設

### 施設概要

**建築面積：**事務室 308.52㎡ 2階1部1階建  
醗酵室 436.75㎡ 地上2階地下1階建  
貯蔵庫 404.58㎡ 1階建  
**活用用途：**神谷傳兵衛記念館、レストラン 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1903(明治36)年：牛久醸造場（現：牛久シャトー）が竣工  
（設計 岡田時太郎）

**文化財指定：**近代化産業遺産（2007年）  
国指定重要文化財（2008年）  
日本遺産（2020年）

**受賞歴：**万国衛生食料品博覧会名誉金牌受賞（牛久葡萄酒）（1903年）  
チュイルク博覧会で金賞牌受賞（牛久葡萄酒）（1904年）  
東京勸業博覧会で一等金賞受賞（牛久葡萄酒）（1904年）



事務室



神谷傳兵衛記念館（醗酵室）



レストラン（貯蔵庫）

### 事業費・事業手法

**事業手法：**民間事業

## 金森赤レンガ倉庫

### 施設概要

**建築面積：**6,307.88㎡（総面積）

B A Yはこだて 1,834.94㎡（1号館，2号館合計）

金森洋物館 2,619.42㎡

函館ヒストリープラザ 1,415.44㎡

金森ホール 438.08㎡

**活用用途：**BAYはこだて（チャペル，クルージング，カフェ等），金森洋物館（カフェ，ショップ等），函館ヒストリープラザ（ショップ・レストラン），金森ホール（多目的ホール）

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治20(1887)年：渡邊熊四郎が共同運輸会社の倉庫建物，地所を買い取り倉庫業を開業

明治40(1907)年：函館市空前の大火で金森倉庫も全焼

明治42(1909)年：金森倉庫の再建工事が完成。現在に至る

昭和63(1988)年：倉庫を改装し『函館ヒストリープラザ』オープン（第一期開発）

平成6(1994)年：金森洋物館オープン

平成13(2003)年：日本郵船より譲渡を受けB A Yはこだてが取得。大型施設となり，施設総称を「函館ヒストリープラザ」改め「金森赤レンガ倉庫」へ変更

平成21(2009)年：B A Yはこだてをリニューアル

**文化財指定：**近代化産業遺産(北海道赤煉瓦)

### 事業費・事業手法

**事業手法：**民間事業 金森商船株式会社が運営

**事業期間：**営業倉庫業：136年

商業施設業：35年



外観



BAYはこだて



金森ホール

## 舞鶴赤レンガ倉庫群

### 施設概要

- 建築面積：**赤れんが博物館 424.36 m<sup>2</sup>、二階建  
舞鶴市政記念館 756.05 m<sup>2</sup>、二階建  
まいづる智恵蔵 756.05 m<sup>2</sup>、二階建  
赤れんが工房 756.05 m<sup>2</sup>、二階建  
赤れんがイベントホール 1266.25 m<sup>2</sup>、二階建
- 延床面積：**赤れんが博物館 842.44m<sup>2</sup>  
舞鶴市政記念館 1,204.12 m<sup>2</sup>  
まいづる智恵蔵 1,521.62 m<sup>2</sup>  
赤れんが工房 1,611.19 m<sup>2</sup>（トイレ棟含む）  
赤れんがイベントホール 2,532.50 m<sup>2</sup>
- 活用用途：**赤れんが博物館、舞鶴市政記念館（ホール・レストラン等）、まいづる智恵蔵（ショップ・コワーキングスペース等）、赤れんが工房（創作工房・音楽スタジオ等）、赤れんがイベントホール（多目的ホール）等

### 事業費・事業手法

- 事業手法：**Park-PFI制度 他
- 総工事費：**1号棟7億円（改修費）、2号棟9億6295万円（改修費）、3号棟5億6129万円（保存修理）、4・5号棟9億7324万円（保存修理）
- 維持管理運営費：**36,350千円（R4年度指定管理委託料）
- 事業(工事)期間：**1号棟（H4～5）、2号棟（H5～6）、3号棟（H17～19）、4号棟・5号棟（H22～23）

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

- 大正7(1918)年：赤れんが5号棟 旧海軍の倉庫として建設。戦後は民間倉庫会社の倉庫として使われた。
- 明治35(1902)年：赤れんが2号棟 旧海軍の倉庫として建設。戦後は市役所の第二庁舎として使われた。  
赤れんが3号棟・赤れんが4号棟 旧海軍の倉庫として建設。戦後は民間倉庫会社の倉庫として使われた。
- 明治36(1903)年：赤れんが1号棟 旧海軍の倉庫として建設。
- 平成5(1993)年：赤れんが博物館開館（赤れんが1号棟）
- 平成6(1994)年：舞鶴市政記念館開館（赤れんが2号棟）
- 平成19(2007)年：まいづる智恵蔵開設（赤れんが3号棟）
- 平成24(2012)年：赤れんが工房（赤れんが4号棟）・赤れんがイベントホール（赤れんが5号棟）開館
- 令和3年(2021)年：国指定重要文化財建造物舞鶴旧鎮守府倉庫施設保存活用計画策定

**文化財指定：**国指定重要文化財（2008年）



外観



赤れんが博物館



舞鶴市政記念館



赤れんがイベントホール

## 旧富岡製糸場

### 施設概要

敷地面積：55,391.4㎡

建造物：約100棟

主要建造物の建築面積：繰糸所 1726.92㎡  
 東置繭所 1486.60㎡ 二階建  
 西置繭所 1486.60㎡ 二階建

活用用途：展示室、多目的ホール 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治5(1872)年：明治政府が模範器械製糸場として設立、操業開始

明治26(1893)年：三井家に払い下げ

明治35(1902)年：原合名会社に譲渡

昭和13(1938)年：株式会社富岡製糸所として独立

昭和14(1939)年：片倉製糸紡績株式会社（現・片倉工業株式会社）に合併

昭和62(1987)年：操業を停止

平成17(2005)年：富岡市に寄贈、公開活用開始

文化財指定：国史跡指定・国指定重要文化財（2006年）

世界遺産（2014年）

国宝（繰糸所、東置繭所、西置繭所）（2014年）

受賞歴：日本エコモス賞(2020年)

照明デザイン賞（優秀賞）（2021年）

日本建築学会賞（作品賞・業績賞）（2022年）

### 事業費・事業手法

事業手法：維持管理・企画・広報等…市職員、おもてなし業務…民間へ委託

維持管理費及び夜間警備費：約1億5千万円（令和3年度実績）

事業期間：民間への委託開始…平成26年～

※直近の保存整備事業：国宝「西置繭所」

ギャラリーや多目的ホール等を整備

工事費：約35億円（平成27年1月から令和2年4月）※約17億円が国の補助



外観



繰糸所内部



西置繭所 多目的ホール

## 兵庫県公館【旧兵庫県庁舎】

### 施設概要

敷地面積：8,772.5㎡

延床面積：9,498.7㎡ 地上3階・地下2階

活用用途：迎賓館、県政資料館 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治35(1902)年：4代目の兵庫県本庁舎として建設

昭和20(1945)年：戦災により内部を消失

昭和23(1948)～昭和24(1949)年：第1期復旧工事

昭和26(1951)～昭和27(1952)年：第2期復旧工事

昭和39(1964)年：兵庫県南庁舎と改称

昭和58(1983)年：改修工事着手

昭和60(1985)年：改修工事完了

昭和60(1985)年：「兵庫県公館」竣工

文化財指定：登録有形文化財(建造物)(2003年)

受賞歴：第1回公共建築賞(建設大臣表彰)  
(1988年)

### 事業費・事業手法

事業手法：県直営



## 名古屋市市政資料館

### 施設概要

建築面積：2,327.33㎡ 3階建

延床面積：6,719.9㎡（渡り廊下部分を除く）

活用用途：公文書館、市政展示、集会室、展示室 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

大正11(1922)年：名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所として建設

昭和54(1979)年：名古屋高等・地方裁判所が移転

平成元(1989)年：「名古屋市市政資料館」として開館

文化財指定：国指定重要文化財(1984年)

### 事業費・事業手法

事業手法：市直営

総事業費：約16億円（国庫支出金約4.1億円、県支出金約8000万円）



外観



建物内



常設展示室



常設展示室



常設展示室



留置場



## KIITO (デザイン・クリエイティブセンター神戸)

### 施設概要

敷地面積：8,601㎡  
建築面積：旧館 868㎡ 新館 4,338㎡  
延床面積：旧館 4,401㎡ 新館：11,623㎡ 地上4階建て  
活用用途：ホール、ギャラリー、会議室、オフィス 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1927年：旧神戸市立生糸検査所（旧館）が清水栄二の設計で竣工  
1931年：国営に移管，農林省神戸生糸検査所となる  
1932年：旧国立生糸検査所(新館)が置塩章の設計で竣工  
1945年：GHQ接收  
1952年：全面接收解除  
1974年：生糸検査所閉所  
1980年：神戸生糸検査所閉所  
1991年：農林水産省消費技術センターに改称  
2001年：建物は農林水産消費技術センターとして使用  
2009年：神戸市が土地建物を購入  
2012年：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）としてオープン

**文化財指定**：神戸市指定景観資源

**受賞歴**：神戸市都市デザイン賞 まちのデザイン部門 ストック再生賞（2014年）  
公共建築賞 優秀賞（2016年）  
BELCA賞ベストリフォーム部門（2017年）

### 事業費・事業手法

総工事費：22億円  
事業手法：指定管理  
維持管理運営費：1億1千3百万円（指定管理料）



外観 (KIITO旧館)



外観 (KIITO新館)



カフェ



ショップ



ホール

<https://kiito.jp/>より転載

## 倉敷アイビースクエア【倉敷紡績旧工場】

### 施設概要

延床面積：1号棟 1,580m<sup>2</sup> 地上2階  
 2号棟 1,110m<sup>2</sup> 地上2階  
 3・4号棟 2,490m<sup>2</sup> 地上2階

敷地面積：約33,000m<sup>2</sup>

活用用途：ホテル、レストラン、ショップ、  
 体験工房、歴史館 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治22(1889)年：倉敷紡績所（現：クラボウ）  
 の本社工場として建設

昭和49(1974)年：倉敷アイビースクエア開業

平成30(2018)年：施設のリニューアル開始

令和2(2020)年：大規模リニューアル（未完）

文化財指定：登録有形文化財(1998年)（館内2施設）

近代化産業遺産(2007年)

日本遺産(2017年)

#### 受賞歴

：日本建築学会賞(1975年)

日本インテリアデザイナー賞(1975年)

第1回公共の色彩賞(1986年)

JIA25年賞(2002年)

### 事業費・事業手法

事業手法：民間事業



外観



外観



ホテル



レストラン



倉紡記念館



俯瞰

## 神戸煉瓦倉庫 HARBOR STORES

### 施設概要

延床面積：北棟 978.52m<sup>2</sup> 南棟 925.12m<sup>2</sup>

活用用途：レストラン、ショップ、フォトスタジオ、ライブハウス 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

明治30 (1897)年頃 : 旧東京倉庫として建設  
～昭和62 (1987)年 : 上屋倉庫として使用  
平成2 (1990)年 : レストランとして再生

文化財指定：神戸市指定 景観形成重要建築物(2007年)

### 事業費・事業手法

事業手法：民間事業



## 北区立中央図書館（旧東京砲兵工廠銃砲製造所）

### 施設概要

敷地面積：5,725.19㎡  
建築面積：2,699.21㎡  
延床面積：6,165.25㎡ 地上3階  
活用用途：図書館、カフェ、ホール、区民活動コーナー 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

大正8(1919)年：弾丸鉛身場として建設  
昭和15(1940)年：東京第一陸軍造兵廠第一製造所と名称変更  
昭和20(1945)年：アメリカ軍に接収されTOD第4地区となり、アメリカ軍の戦車整備工場となる  
昭和33(1958)年：一部日本に返還  
昭和34(1959)年：陸上自衛隊十条支所となる  
平成20(2008)年：北区立中央図書館開館

#### 文化財指定：

受賞歴：  
日本図書館協会建築賞（2011年）  
日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）（2011年）  
グッドデザイン賞  
社会領域－公共・文化教育関連施設（2009年）

### 事業費・事業手法

総工事費：3,475,577千円  
事業手法：北区自主事業



## S-BRICK

### 施設概要

敷地面積：3,149.08㎡  
 建築面積：1,493.19㎡  
 延床面積：1,484.19㎡  
 活用用途：レストラン(カフェ)、キッズスペース、多目的スペース 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1909(明治42)年：鐘紡洲本工場（紡績原料の綿の保管場所）として建設  
 1986(昭和61)年：紡績工場としての役割を終える  
 1995(平成7)年：民間業者が美術館などの「ミュージアムパーク・アルファビア」として再利用  
 2000(平成12)年：閉館  
 2021(令和3)年：S BRICKオープン

文化財指定：近代化産業遺産(2007)

### 事業費・事業手法

総工事費：約3億3千万円(主にふるさと納税基金を活用)  
 事業手法：DB方式に近い  
 (【設計・施工・運営業務委託一括契約】+【維持管理委託】)  
 事業期間(工事)：令和2年3月4日～令和3年3月31日  
 ※令和3年4月29日リニューアルオープン  
 R3維持管理費：2,650千円  
 運営費：39,700千円  
 R4維持管理費：3,680千円  
 運営費：39,700千円



外観



レストラン



キッズスペース

## 澎湃館【昭和町れんが倉庫群】

### 施設概要

敷地面積：497.76㎡

建築面積：298.45㎡

延床面積：1階298.45㎡

2階(倉庫利用)278.16㎡

合計576.61㎡

活用用途：カフェ、ショップ、資料室 等

### 歴史的価値・活用の経緯

#### 建物の歴史

1900(明治33)年：旧海軍の倉庫として建設

2018(平成30)年：オープン

文化財指定：日本遺産

受賞歴：令和4年10月文化庁日本遺産PR商品認定

### 事業費・事業手法

総工事費：約2,000万円(1階倉庫内装を改装)

維持管理運営費：約900万円

事業手法：(株)大之木ダイモ 澎湃館事業部  
(物品販売 資料展示 講話無料公開 催物賃貸)

事業期間：平成30年(2018年)9月～

